

報道関係各位

アジア各国における早期新薬開発拠点間でコンソーシアム構築 アジアの特性を踏まえたがん新薬開発を目指し始動

2017年11月27日

国立研究開発法人 国立がん研究センター

国立研究開発法人国立がん研究センター(理事長:中釜齊、所在地:東京都中央区)は、中国、韓国、シンガポール、台湾で早期新薬開発拠点(フェーズ1センター)となっている医療機関と連携を強化する覚書を9月14日に締結しました。これにより、国立がん研究センターを含めたアジアの5医療機関でコンソーシアム「Asian Oncology Early Phase 1 Consortium」を構築し、早期臨床試験(フェーズ1治験)の共同実施を加速させ、アジアの特性を踏まえた効率的な早期新薬開発を目指します。

また、11月19日には各国実務者による締結後初の会合が行われ、2018年初旬より始動する同コンソーシアムを活用したフェーズ1治験数試験の実施計画や今後のコンソーシアム体制強化に関する様々な議論及び検討が行われました。

今後さらに、本コンソーシアムのプラットフォームを用いた国内外製薬企業主導によるアジア国際共同早期新薬開発治験の促進および国立がん研究センター医師主導での国際共同医師主導治験や、国内外製薬企業の早期新薬開発部門との連携強化、各施設間の人的交流を進め、アジアでのゲノム医療推進や希少がんの新薬開発を含めた早期新薬開発促進に取り組んでまいります。

国立がん研究センター企画戦略局長で中央病院副院長の藤原康弘は次のように述べています。「胃がんや肝臓がん、胆道がんなどはアジア人で多く発症します。そのようながんでは、欧米が主導するものではない、アジアが主導する、アジアに合った創薬開発の振興が必要です。アジア各国の一流の医療機関だけで構成された臨床試験グループで国際共同試験(治験)を行っていくことには、大きな意義があります。」

参加医療機関

日本	国立がん研究センター(National Cancer Center, Japan)
中国	香港中文大学医学院(Chinese University of Hong Kong) プリンス・オブ・ウェールズ病院(Prince of Wales Hospital)
台湾	国立台湾大学医学院附設医院(National Taiwan University Hospital)
シンガポール	国立シンガポールがんセンター(National Cancer Centre Singapore)
韓国	国立ソウル大学病院(Seoul National University Hospital)

連携概要

- アジア地域における主要な早期新薬開発拠点施設間の連携体制およびコンソーシアムの構築
- 製薬企業主導・医師主導の別なく、参加機関間で国際共同臨床試験（治験）の機会を相互に共有し、アジア地域での早期臨床試験（フェーズ 1）や共同研究を実施
- 各製薬企業に向け、本コンソーシアムの活用を働きかける

今後の展望

- 本コンソーシアムのプラットフォームを用いた国内外製薬企業主導によるアジア国際共同早期新薬開発治験の促進
- 国立がん研究センター医師主導によるアジア国際共同医師主導治験（臨床試験）や共同研究の実施
- 国内外製薬企業の早期新薬開発部門とアジアの主要な早期新薬開発拠点（フェーズ 1 センター）間の連携を強化
- アジアにおけるがん早期新薬開発から後期開発（アジア国際共同治験）への橋渡し展開を将来的視野に入れたコンソーシアムの包括的展開
- アジアにおけるゲノム医療促進・希少がん新薬開発における連携の模索
- アジア各国における臨床試験をめぐる薬事規制要件および倫理審査委員会体制等の差異に関する調査研究および情報収集体制の充実
- アジアの主要な早期新薬開発拠点施設間における若手研究者・支援部門等の人的交流の促進
- 新薬開発により、各国国民の保健福祉の充実・東アジアの産業発展に貢献



Asian Oncology Early Phase 1 Consortium

CU Medicine 香港中文大學醫學院 Faculty of Medicine The Chinese University of Hong Kong

国立がん研究センター National Cancer Center Japan

Since 1983 國立台灣大學醫學院附設醫院 NATIONAL TAIWAN UNIVERSITY

National Cancer Centre Singapore SingHealth

SNUH SEHLL NATIONAL UNIVERSITY CANCER HOSPITAL

“アジア地域における強固なフェーズ1 コンソーシアム確立”

- アジアの主要早期新薬開発（トップPhase 1施設）施設間におけるコンソーシアム体制構築
- 国内外製薬企業早期新薬開発部門とアジアにおけるKey Phase 1 Investigators間の連携強化
- NCC主導によるアジア国際共同医師主導治験（Asian-multinational IIRDTs）実施
- アジアにおけるKey Phase 1施設間における研究者・臨床試験支援部門等の人的交流促進
- アジアにおけるゲノム医療促進・希少がんに対する新薬開発の促進

日本・中国・台湾・シンガポール・韓国におけるアジアトップフェーズ1施設間の連携

アジアにおけるがん早期新薬開発に特化した研究者間の強固な連携体制構築

 中国 (香港特別行政区) 香港中文大學醫學院 プリンスオブウェールズ病院	 日本 国立がん研究センター	 台湾 國立台灣大學醫學院 附設醫院	 シンガポール 国立シンガポール がんセンター	 韓国 国立ソウル大学病院
--	---	--	--	--

アジアがん早期新薬開発（フェーズ 1）コンソーシアム提携メンバーおよび今後の展望



覚書を手にするアジアがん早期新薬開発(フェーズ1)コンソーシアム提携メンバーの代表研究者

<報道関係のお問い合わせ先>

覚書に関する問い合わせ先

国立研究開発法人 国立がん研究センター 中央病院 先端医療科医長 清水俊雄
〒104-0045 東京都中央区築地 5-1-1
TEL:03-3542-2511

その他全般

国立研究開発法人 国立がん研究センター 企画戦略局 広報企画室
〒104-0045 東京都中央区築地 5-1-1
TEL:03-3542-2511 FAX:03-3542-2545 E-mail:ncc-admin@ncc.go.jp